

## 第 27 回人口・社会統計部会結果概要

1 日 時 平成 23 年 1 月 7 日（金） 16:50～17:45

2 場 所 総務省第 2 庁舎 6 階特別会議室

### 3 出席者

（部 会 長）阿藤誠

（委 員）津谷典子、安部由起子

（専 門 委 員）小暮厚之

（審議協力者）総務省、文部科学省、厚生労働省、農林水産省、経済産業省、国土交通省、東京都、神奈川県

石井太（国立社会保障・人口問題研究所国際関係部第三室長）

（統計作成者）厚生労働省大臣官房統計情報部人口動態・保健統計課：小野課長ほか

（事 務 局）内閣府統計委員会担当室：杉山参事官

総務省政策統括官付統計審査官室：吉田調査官ほか

4 議 題 生命表の基幹統計としての指定について

### 5 結果概要

#### （1）前回部会で整理が必要とされた事項に関する審議

前回部会で出された①及び②の事項について、厚生労働省から説明された後、男女計の作成・公表についての審議が行われた。

① 国際機関等における男女計の生命表の作成状況

② 男女計の生命表について、今後、参考表として作成することの必要性

審議の概要は、以下のとおり。

○ 男女別だけで足りており、男女計を出す必要はないものと思う。ただ、国によっては男女の性比が著しく不均衡な国もあるので、男女計を単純平均により算出する場合には、取扱いに注意する必要がある。

○ 男女計の値を基幹統計に入れることは好ましくない。ただ、作り方としては単純平均のほか、いろいろ方法があるので、一国全体としての指標が必要となる場合に備えて、報告書上等で、計算方式を示す方法もある。

→ 生命表の作成方法は、男女とも同じで、計算式、データも同じで報告書に掲載している。報告書で、男女計の算出は可能と考えている。

○ 厚生労働省にあっては、今ある男女別だけではなく、男女計の値の提供についても議論があったことについて、今後、配慮していただければということにしたい。

#### （2）答申案に関する審議

部会長から答申案が示され、審議の結果、下記の意見を踏まえた所要の修正が行われることを前提として、原案のとおり答申案が了承された。

なお、答申案の修正については、部会長に一任することとされた。

審議の概要は、以下のとおり。

ア 「2 理由」について

- 「日本人の死亡状況を厳密に分析」とあるが、平均余命は延びており、生命表は、死亡の状況を示す指標としてだけでなく、生存の状況に関する指標ともなっている。したがって、生命表のより広範な利用を明らかにするためには、「日本人の死亡と生存の状況」とした方がよい。
- 「日本人」というのは、国籍が日本人ということか。また、日本にいない日本人は含まれないということか。  
→ 日本国籍の人であり、日本に在住する日本人を意味している。
- 「民間保険会社における年金保険料率算出の基礎資料として利用」とあるが、年金保険だけなのか、生命保険の保険料率算定にも利用されているのではないか。
- 生命保険については、民間保険会社が保有している契約者に関するデータで基本的に対応できるが、年金保険については、契約者が生命保険に比べて少なく、独自のデータで対応することができない。そこで、国の生命表が利用されている。

イ 「3 今後の課題」について

- 今後の課題として、100歳以上の高齢者に係る推計方法の改善について明記されたことは高く評価できる。一方で、我が国の高齢化は、他の先進諸国と比べても、進行のスピードが速く、他の国々からも注目されている。高齢者の死亡率をどう測定するかという問題は、これまではデータのない中で人口学等の分野で研究が進められてきているが、今後も科学的な解明が進んでいく分野と思われる。生命表という加工統計において、質を担保し、高めていくためには、死亡の測定に関する最新の研究成果を常に反映していくことが重要である。今回の答申を踏まえた今後の対応として、厚生労働省にあっては、今後も高齢者の死亡率の改善をどう見るか、死亡のパターンをどう見るかということに関して、研究部門とも連携を図りつつ、常に検討していただきたい。
- 日本ほどの人口規模の国で、これだけ平均余命の長い国はあまり類例がないのだから、単に「検討する」だけでなく、「現行の方式の妥当性を含め、多様な推計方法を総合的に検討する」とされてはどうか。
- 前回、健康生命表の議論もあり、今後、中長期的に検討していく課題としていたのではないのか。この点を、今後の課題として記載する必要はないか。
- 健康生命表については、違う質のデータが必要になり、また、議論の結果、将来的な課題として検討するという整理がされている。今後の課題には、今回、基幹統計の対象となる完全生命表と簡易生命表についてだけ記載するということにしてはどうか。